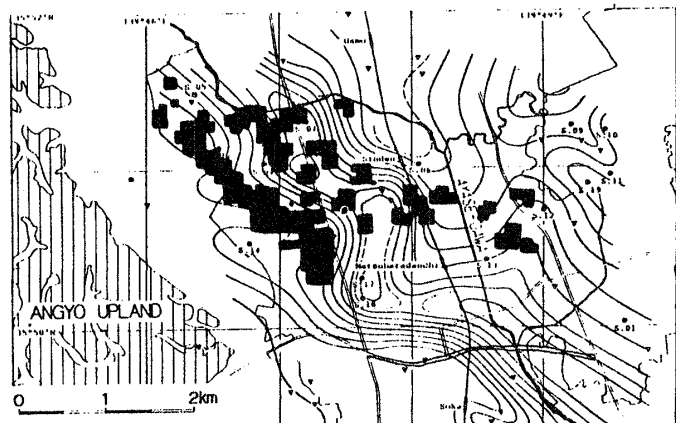


## 震動地塊と震度分布 (コメント)

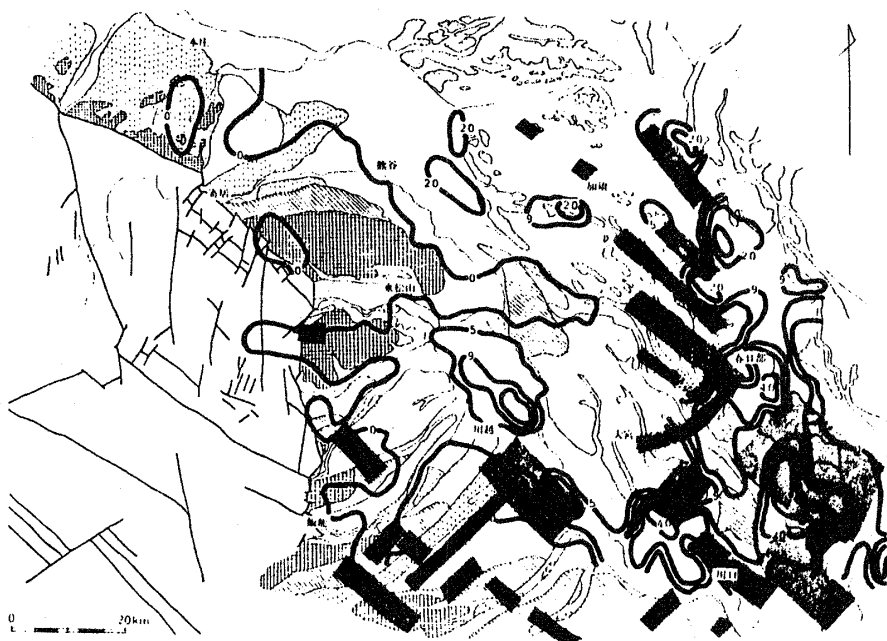
角田史雄(埼玉大学・教養)・地震震動研究会

従来、地盤の強震動は、沖積層に関係して発生するといわれてきたが、その中のどの因子(たとえば、層厚、層序、基盤形状、断層)が重要な役割を果すのかについては余り追求がなされなかった。筆者らは、震度分布をしらべ、顕著なたてゆれ初動を感じる区域(異常震動帯)を識別し、それを境にして震動のよこゆれの強さが異なることを



第1図. 埼玉県草加市における関東地震の被害分布。曲線は沖積層中の下部泥層の等層厚線。黒色部は全壊家屋集中域。

明らかにした(角田・堀口, 1981)。さらに、これらの小規模な有感地震によって現われる異常震動帯は、かつての大地震の際に被害集中区域になっていることも明らかにした(角田ほか, 1981, 第1図)。さらに、広域的にみても、小地震のときにあ



第2図. 1979年の房総半島沖地震の異常震動帯(AVZ)と関東大地震のときの全壊家屋の分布(%)

らわれる異常震動帯と、大地震のときの強震動域とは場所的によく対応することも報告した(角田・堀口, 1981)。以上のことから、筆者らは、強震動の発生条件に、基盤の形状や断層などの地質構造要素を加えるべきと考える。